

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3070101765
法人名	社会福祉法人 喜成会
事業所名	グループホーム 喜成会
所在地	和歌山県和歌山市北野118番地2 (電話) 073-462-1165

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年3月27日
評価確定日	平成20年5月20日

【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	8 人 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 5 階 ~ 5 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	向井病院 紀伊クリニック 小谷歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR紀伊駅から少し離れた見晴らしの良い所に立てられた、高齢者総合ケアセンターの5階に位置し、開設から8年目を迎えているホームです。一人ひとりの入居者が、その人らしく泣いたり笑ったり、人との関わりを持ちながら生活できるように支援していくことを大切にしています。定期的なアセスメントを行い、その人の状況の変化を把握し介護計画の見直しをしたり、日々の記録の充実に取組み、行っているケアの記録が適切にわかりやすく残されています。また、運営推進会議を期に、地域の人々とも直接的な関わりを持ち始めているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、共有空間が居心地良く、家庭的な雰囲気になるように、玄関に靴箱やパーテーションの設置、リビング以外の場所にも応接セットを置くなど工夫しました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を職員全員に配り記入してもらい、管理者が取りまとめました。また、取り組めることから実践しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族会や地域包括支援センター、自治会長(兼民生委員)、地区人権委員会、紀伊支所からの出席があり、2ヶ月に1度運営推進会議を開催しています。ホームの活動について、スライドを見ながらわかりやすく説明し、ホームのことで知られるようになり取り組んでいます。地域の人々にも知ってもらえるよう、勉強会を開いてもらえたり、ターミナルケアについてや防火安全対策について等の意見をもらえる会議になっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、個々の入居者のホームでの様子を直接伝え、日々の希望などを聞いています。面会は少なくとも月に一度はありますが、来られないときには、電話で連絡をとり伝えています。また、年に2回家族会を開催したり、運営推進会議の参加時に、意見や苦情を話す機会を作っています。実際には苦情等はなく、バックアップしてもらえるような意見をもらえています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していませんが、地域の行事に参加したり、法人の行事に地域の人々が来る際の交流があります。運営推進会議をきっかけに、自治会長がホームで作っている畑に立ち寄ってもらえたり、協力が得られるようになりました。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑って泣いて、人生つれもていこら」という理念が掲げられ、その人らしく、地域の中で一緒に暮らしていくという思いが込められています。入居者のケアの方向性に迷いが生じたときに、職員皆でその理念を作り上げました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの見えやすい位置に、大きく書道で書かれた理念を掲示しています。新しい職員の入職時やミーティングの時に、職員に話をしています。日々のケアの中でそれが実践しているか、話し合うときに意識しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していませんが、地域の行事に参加したり、法人の行事に地域の人々が来る際の交流があります。運営推進会議をきっかけに、自治会長がホームで作っている畑に立ち寄ってもらえたり、協力が得られるようになりました。	○	ホームとしての地域との交流を持ったり、入居者が地域の人々と直接的な関わりをもっていきたいと考えています。学校や自治会との関わりを深めることによって、地域の活動や交流の機会が増えることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員全員に配り記入してもらい、管理者が取りまとめました。また、取り組めることから実践しています。前回の外部評価を受けて、共有空間が居心地の良く家庭的な雰囲気になるように、玄関に靴箱やパーテーションの設置、リビング以外の場所にも応接セットを置くなど工夫しました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会や地域包括支援センター、自治会長(兼民生委員)、地区人権委員会、紀伊支所からの出席があり、2ヶ月に1度運営推進会議を開催しています。ホームの活動について、スライドを見ながらわかりやすく説明し、ホームのことを知ってもらえるように取り組んでいます。地域の人々にも知ってもらえるよう、勉強会を開いてもらえたり、ターミナルケアについてや防火安全対策について等の意見をもらえる会議になっています。		

グループホーム喜成会

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、手続きや報告の際に連絡を取っているが、サービスの質の向上に向けての取組みにまでは至っていない。グループホーム連絡会等を通して、県の担当者とは連携が図られている。	○	管理者は、グループホーム連絡会の連携と共に、市の担当者との連携を持ってサービスにあたりたいと考えています。ホームの課題や情報を共有し、サービスの質の向上へ取り組んでいくこと期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、個々の入居者のホームでの様子を直接伝えています。面会は少なくとも月に一度はありますが、来れないときには、電話で連絡をとり伝えています。また、面会時に金銭管理の報告も行っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時のコミュニケーションにより、日々の希望などを聞いています。また、年に2回家族会を開催したり、運営推進会議の参加時に、意見や苦情を話す機会を作っています。実際には苦情等はなく、バックアップしてもらえるような意見をもらえています。	○	直接的に要望や意見を言いにくいという家族の心情を考慮して、無記名のアンケートなどを行ってみたいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、直接個々の職員とコミュニケーションをとりながら、思いの把握に努めるとともに、常勤雇用に務め職場環境を整えています。異動や退職による入居者へのダメージが少ないように、以前からいる職員で馴染みの関係を築いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加するようにしていますが、現場に即していないことも多いと考えており、新たな教育体制が必要であると考えています。また、研修案内を掲示し、希望に合わせて参加しています。研修報告書を書き、ミーティング等で他の職員にも伝達しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県のグループホーム連絡会の役員をし、職員も連絡会に参加しています。ホーム同士の交換研修を行ったり、情報交換を行いながら、当該ホームのサービスを振り返る機会となり、サービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の生活の様子を訪問や家族からの聞き取りから、情報を得て馴染みやすい環境を工夫しています。また、入居前に体験入居ができる体制があったり、馴染みやすいように職員の関わりも工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念には、一緒に泣いたり笑ったりしながら個々の生活を支えるという思いが込められています。職員は個々の入居者に合わせ、以前の生活を聞いたり、教えてもらう姿勢を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや会議の中で、個々の思いを汲み取れるよう心がけています。できることやわかることなどを整理できるよう、センター方式の一部をアセスメントとして使用し、個々の入居者の理解に務めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者や担当の介護職員を中心に、本人や家族の意向を聞き、他の職員の意見を合わせ、介護計画を作成しています。家族からの意向を充分に聞けていないと考えています。	○	「お任せします」という言葉から一歩踏み込んで、入居者がどのように暮らして欲しいのかの具体的な言葉が聞けるような、コミュニケーションの方法を工夫し、介護計画に反映されることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに短期目標の評価を行い、介護計画も見直しています。入居者の状況の変化があったときには、その都度見直しています。		

グループホーム喜成会

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が入院をしたときに食事介助に行ったり、早期退院に向けて取り組んでいる。また、かかりつけ医の受診同行や家族の葬儀の出席のための支援など、必要に応じて家族と相談しながら希望に添えるよう支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談しかかりつけ医を決めています。提携医以外のかかりつけ医を持ち、受診同行しながら連携を持ち支援している入居者もいます。また原則として、24時間医師と連絡し、相談できる体制はありますが、夜間および、早朝において医師との連携が不備な点があります。	○	夜間および、早朝における医師との連携体制の充実を期待します。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重要事項説明書に添って、ホームでできることとできないことの話をしています。重度化したり、状況に合わせて家族や医師、職員間で話し合いを進めながらその対応を決めています。重度化や終末期に向けた指針を文書化し、同意を得ることは行っていません。	○	ホームとして取り組んでいけること、できないことを記載した重度化や終末期の対応指針を文章化し、早い段階から話し合いがスムーズにできる取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損なうような声かけには十分気をつけるように指導しています。日々のケアの中で、支持的な言葉がないか適切な言葉使いであるかをみて、その都度個別に注意をしたり、ミーティングで話をしています。個人記録の保存は、事務所の棚に保管していますが、鍵や扉はありません。	○	介護記録などの個人ファイルは、鍵付きの書庫に保管されるのが望ましく、扉のある棚や机の引き出しに保管されてはいかがでしょうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントからも一人ひとりの生活のペースを知り、その日の希望や体調に合わせた支援を心がけています。しかし、職員の人数の少ないときには、職員の都合になってしまっていることもある。	○	職員の体制やスキルにより、入居者のペースが守られていないこともあるので、定期的な会議を開き、職員の意識の統一を図り、職員の都合となることを減少していくことを期待します。

グループホーム喜成会

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、食材の買い物や食事作り、片付けなど、入居者のできることを一緒に行っています。また、職員と入居者が一つのテーブルを囲み、同じ食事を食べながら食事の支援も行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームで決められた時間はありますが、その時の希望に合わせて午前中に入ったり、毎日入浴することも可能であり、個々のタイミングで入浴できるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や畑仕事、ぞうきん縫いなどの裁縫など、個々のできることや好きなことができ、役割となるように支援しています。買い物や外出などが楽しみごととなっている入居者には、それができるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中で、畑などホームの周りに出る機会があります。介護度の高い入居者も、散歩に出かけたり、時々車でドライブに出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターがホームの出入り口となっていますが、ロック等は掛けられていません。また、外に出たいという思いを察知し、できるだけ希望に合わせて外出できるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度、消防署から来てもらっての避難訓練を行い、自主的にも年に2~3回行っています。運営推進委員会で地域の人々にも協力が得られるよう話し合わせ、具体的に実現していけるよう検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを考える時には、できるだけ多くの食材を使うように心がけています。入居者の嚥下や咀嚼機能に合わせ、刻んだりろみをつけたりして対応しています。また、食事量や水分量はその都度チェックし記録しています。定期的な体重測定や採血等の検査を実施し、栄養状態を含めた健康管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い広い共有空間には、入居者の行動や生活がしやすいように、ソファや畳のスペース、応接セットなどの配置を考えています。食堂のテーブルは、全員がそろって座れ、ソファや応接セットでは、個々の寛ぎの場所となっています。廊下にも飾り棚に植物を置き、季節感がある飾り付けをしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の協力を得て、以前に使っていた家具などを持ってきてもらい、その人らしい居室作りを心がけています。たんすや椅子、植物、写真などが持ち込まれ、個性のある居室になっています。		